

創価大学 スーパーグローバル大学創成支援 ロジックモデル

インプット

アクティビティ

アウトプット

初期アウトカム

中・長期アウトカム

インパクト

- 人件費・謝金**
- 専任教員
 - 英語専門科目教員
 - 海外招聘教員
 - 専任職員
- 旅費**
- 短期研修引率
 - FD・SD海外派遣
 - 国際交流会議参加
- その他費用**
- 外国人留学生向けHP制作
 - 学内規程、文書翻訳
 - 国際シンポジウム等出展
 - 学内語学試験等実施
 - 海外傷害保険
 - パンフ制作、印刷製本
- 国際平和学・研究科**
- 設置に係る費用(専任教員雇用等)
 - 学内キャンパス整備費(国際学生寮の新設、ラーニングコモンズのサービス強化)
 - インバウンド・アウトバウンドに係る奨学金
 - 語学試験の受験料補助
 - 研究経費
 - 海外事務所維持・運営費(人件費・施設利用料等)

- 外国人留学生増加の取組
- 外国語力基準達成者増加の取組

グローバル・モビリティ

- 派遣学生に対する取組
 - 単位認定制度整備
 - 奨学金の整備
 - 留学情報ステーションにおける情報発信
 - 危機管理体制の整備
 - ※ 危機管理訓練実施(全学対象) 保険加入等徹底
 - キャリアサポート
- 受入学生に対する取組
 - 国際学生寮の拡充
 - 奨学金の整備
 - 英語等による本学情報の積極的発信
 - 海外交流イベント参加による広報活動
 - 日本語・日本文化教育プログラムの拡充
 - メンタルサポート
 - キャリアサポート
 - 海外交流校等訪問、協議

グローバル・ラーニング

- 協同学習・語学(10言語)で留学生とディスカッションを行う「ラーニング・コモンズ」
- 語学教育の取組
 - English for study abroad 科目の開講
 - 外国語力アセスメントの強化
 - 受験料支援制度の拡充
 - 英語で学ぶ学部専門科目の拡大

グローバル・アドミニストレーション

- 外国人教員等の積極的採用
- 自己点検・評価と外部評価の実施
- 学内文書等の英語化
- 事務職員海外派遣(フィールドワーク等)

グローバル・コア

- グローバル・コア・センターの設置
- 国際平和学研究科の設置

◆ 学生

- 外国人留学生の増加(2013年313人→2018年866人)
- 日本人学生の留学増加(2013年557人→2018年873人)
- アフリカ諸国への派遣者数増加(2013年13人→2019年56人)
- 海外ボランティア・インターンシップの参加者増加
- 海外修学体験を持つ看護師・教員従事者の輩出
- 外国語力基準(TOEFL・iBT80相当以上) 達成学生の増加(2013年296人→2019年1246人)

◆ 教員・職員

- 外国人教員等の増加(2013年138人→2019年196人)
- 国際通用性を見据えた教員評価システムの導入
- 職員の国際対応力向上

◆ 授業

- English Track(英語のみで卒業可能なコース)の増加(2013年11コース→2019年111コース)
- 英語による授業科目の増加(2013年120授業科目→2019年770授業科目)

◆ 大学

- グローバル・コア・センターによる学部・研究科、研究所の連携強化
- 海外交流校の増加(2013年148校→2019年222校)
- 海外拠点の増加
 - ※ 中国に加え、韓国、タイ、フィリピンに新設
- 研究交流の推進
- 国際バカロレア等の活用

◆ 教育

- キャンパスの多様化
- 留学意識の向上 海外シンポジウム、サミット等へ学生が参加
- 海外研修による学習効果の向上(BEVI-j、VALUEルーブリックで測定)
- 共通科目「世界市民教育科目群」の開設
- グローバル企業への内定者数増加(2013年103人→2019年189人)
- 海外大学院合格者数増加(2013年30人→2019年54人)

◆ 研究

- 研究成果の発信(私立大学研究ブランディング事業をエチオピアで、SATREPS事業をマレーシア、エチオピアで実施)
- 国際会議、シンポジウム(ASAIHL「東南アジア高等教育協会」総会他)の開催
- 国際平和学研究科は教員9名中 外国人7名、全学生外国人留学生でスタート

◆ ガバナンス

- グローバル・コア・センターによる国際関係事項の迅速な意思決定、研究交流推進
- 事務局の各部署で外国語対応(英・中・韓)

◆ 人間教育の世界的拠点の構築

- 「平和」「人権」「開発」「環境」分野の研究・教育活動の推進
 - 論文数の増加
 - 国際共同研究の増加
- SDGsの取組、国際機関との連携推進
 - 本学50周年(2021年)記念事業として推進
- 大学の国際競争力強化
 - 各種大学ランキングでのランクアップ

◆ 平和と持続可能な繁栄を先導する「世界市民」教育・研究

- 多様なキャンパス、国際通用性のある教育、国際研究協力による「世界市民」教育・研究の推進
- 修士課程 英語教育専修(TESOL)の国際認証評価獲得

◆ 補助金終了後の大学グローバル化関連事業の自走化

- 同窓会組織等より10年間の寄付金募集、取組の継続推進のための基金化

- ▶ 「人間教育の世界的拠点の構築」を通じ、「平和」「人権」「開発」「環境」分野について、国内外諸大学・研究機関とのハブ機能を果たし、国際社会に教育・研究成果を還元
- ▶ 「世界市民」教育・研究を通じ、English Trackと国際平和学研究科等による世界基準の通用性、「人間教育」の独自性を活かし、日本の大学のグローバル化を先導

>>> インパクト達成に向けた取組 <<<

- 本学「グランドデザイン2021-2030」において、国際戦略として「本事業の成果をもとに発展的な目標を設定した中長期計画」を策定
- OSGU事業成果の他大学との共有・普及・展開
- 「価値創造教育」に関する国際共同研究
- アメリカ創価大学、本学姉妹校(創価高校・関西創価高校/いずれもSGH採択)との連携拡充